



アラブ首長国連邦 派遣期間 2015年4月~2018年3月
アブダビ日本人学校 帰国報告

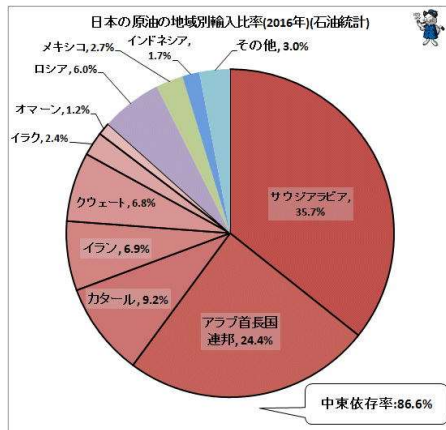
岩見沢市立北真小学校
 教諭 佐々木 知成

1 アラブ首長国連邦について

国名：アラブ首長国連邦（略称 UAE United Arab Emirates）

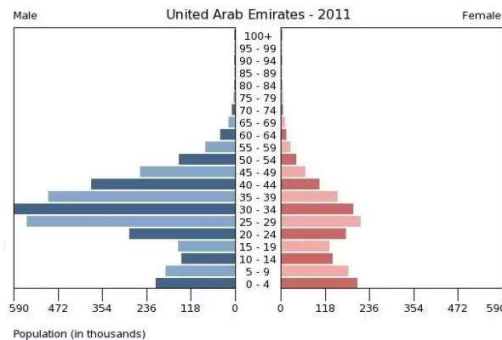
7つの首長国からなる連邦国家。首都はアブダビ。大統領はアブダビ首長家、副大統領はドバイ首長家が世襲により継ぐのが慣例化している。

油田の開発は1960年代から本格化した。原油・天然ガスを生産しているのは4首長国であるが、そのうち原油はアブダビが94.3%、ドバイが4.1%を生産。天然ガスはアブダビが93%、ドバイが2%を生産している。つまり UAE の石油・天然ガスの生産・輸出はアブダビ首長国に大きく依存している。

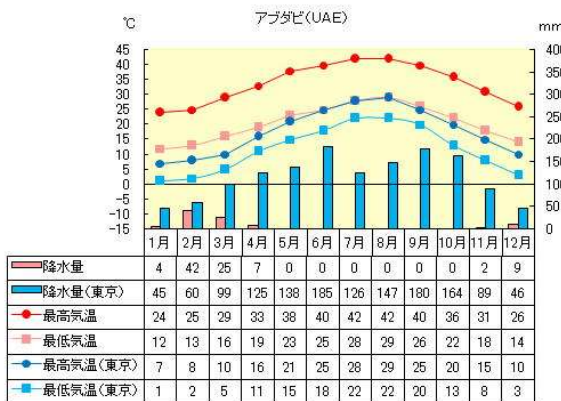


日本の原油輸入先としては、サウジアラビアに次ぎ2番目。日本の自主開発油田で最大のものがアブダビにある。

人口は915万人で、その80%以上が移民や外国人労働者で占められている。そのため英語が一般的に広く使われている。人口の男女比と年齢構成も特徴的で、男性が女性の2倍以上、勤労世代に限ると3倍以上と多くなっている。これは外国人労働者が多いため。



気温は非常に高く、夏は50度を超えることもある。冬は25度前後。雨はほとんど降らない。夜の湿度は80%前後、昼の湿度は30%前後。



アブダビは世界で一番治安のいい都市に選ばれた (NUMBEO Crime Index 2017~2018)。実際、自転車に鍵をかけなくても、3年間盗まれなかった。

これは、就労するためにスポンサー制度を設けていることや、イスラム文化に因るところが大きい。

2 アブダビ日本人学校について

[教育目標]

アブダビ日本人学校においては、日本の教育基本法および学校教育法に示された小・中学校の教育目標に則り、心身の発達に応じた教育を行っている。また、アラブ首長国連邦の文化や生活に適応しつつ、国際感覚を身につけることを重視する。

児童生徒一人ひとりの良さや可能性を最大限に伸張し、将来国際社会において日本人として尊敬と信頼を受けるに足りる人間としての基礎を育てている。教育目標は次の通り。

学ぼうとする子どもに育てる

思いやりをもって行動する子どもに育てる

健康に過ごせる子どもに育てる

国際感覚を生かせる子どもに育てる

[特色]

- ①少人数学級の良さを生かし、個に応じた指導を充実し、一人ひとりの子どもの個性を十分に伸ばす工夫をしている。
- ②現地 UAE 児童生徒を正式に受け入れ（各学年1～4人）、一緒に学習・生活する中で、異なる文化や多様な価値観を認め高め合う、国際感覚豊かな人間性を育てている。
- ③現地の素材を生かした教材研究をすることで、現地理解教育及び国際理解教育を進めている。

①少人数学級の良さを生かす

小規模の学校であるため、児童生徒一人一人に目が行き届き、それぞれの発達段階や理解度に合わせて適切な対応が可能である

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
13	8	6	8	5	8	4	2	4

教育課程が日本と同じなのは当然だが、小学1年生から毎日6時間授業を行うなど、時数にも余裕があり、丁寧な指導が可能であることも大きい。

- ◇幅広い年齢層の子どもたちが一緒に生活する中で、高学年は高学年としての役割や低学年への思いやり、低学年は高学年への尊敬・あこがれなどを自然に身につけている。
- ◇中学校受験・高校受験に備えて、小学5・6年生は年2回、中学1～3年生は年に5回、外部の実力テストを実施している。中学部はそのテストで志望校の判定も行い、進路指導をしている。小学部は標準学力調査等を実施し、児童一人一人の結果から苦手分野などの傾向を読み取り、個々に支援している。
- ◇希望者には受験に備えた発展学習（学習指導要領を超えた内容も含む）を放課後に実施している。また基礎基本の定着をさらに図る補充学習も放課後に実施している。
- ◇後述する現地児童生徒を支援する目的で派遣されている、NPO 法人『全国国際教育協会』の支援員が授業に入り、複数体勢で指導に当たることができている。

②現地UAE児童生徒を正式に受け入れ

アブダビ日本人学校の最大の特色である。アブダビ皇太子の肝いりで実現した制度で、附属幼稚園から日本語指導を重ね、日本語による授業やコミュニケーションに耐えうる児

童生徒が各学級1～4人在籍し、一緒に学習・生活している。人種も国籍も言葉も文化も生活環境も違う子と共に学習し、生活することで、他を受け入れ尊重し合う風土が自然とできている。「みんなと少し違う」ことを理由にいじめが発生する日本のニュースを見聞きするにつれ、「日本に必要なものが、ここにある！」と痛感する。



◇現地 UAE 児童生徒の頑張り

7:15 から始まる『0時間目』をスタートに、18:30 まで行われる放課後学習を含めると、現地生徒はまる半日学校で学習を続けている。母国語ではない言葉で進められる日常の学習についていくために必死で学習していることを、日本人児童生徒も知っていて、学力的には決して高くない現地生徒を馬鹿にする者はいない。逆に刺激を受けて、学習意欲につなげている日本人児童生徒もいる。



◇授業への参加態度（中学生）

日本の中学校であれば、授業中に積極的に手を挙げて発言する生徒がどれくらいいるのであろうか。少なくともアブダビ日本人学校の現地生徒は挙手発言することに恥ずかしさなど微塵も感じていないどころか誇りにさえ感じているようだ。そのためか、日本人生徒も物怖じすることなく、積極的に授業に取り組んでいるし、討論も活発に進む。

◇宗教・文化の影響

イスラムの教えには、「正しいことは進んですること」や「悪いことはしてはいけない」というものがあり、それを信じている子は正しいことをするのに躊躇がない。人に優しくすることに戸惑いがないのだ。その姿勢は、日本人児童生徒にとっても良い影響を与えている。

反対に時間にルーズな点や約束を厳守しない点（よく言えば大らか）は、日本の子どもたちにとって良い反面教師となっている。

◇注目される日本の道徳教育

中東全域・北アフリカまで放送網のある大手テレビ局が、アブダビ日本人学校の紹

介に2日間張り付き取材した。その時の収録の着眼点は日本の教育、特に道徳指導であった。

- ・授業中は全員が集中して課題に取り組み統制がとれている
- ・ドリル学習をする
- ・まっすぐ並ぶ
- ・掃除を全員がする
- ・全校が集まっても整然としている

等々、統制がとれ落ち着いて学習に向かう環境を熱心に収録していた。そして道徳教育をはじめ学校教育に「他者を思いやる気持ちの醸成」があること、「学校全職員が教科指導だけでなく、学校生活の全ての場面において指導する」という説明にも相当興味をひかれていた。実際夏休み中に日直をしていると通算100件近く「子どもを日本人学校に入れたいのだがどうしたらよいのか？」という電話を受けた。「どうして入れたいのですか？」と聞いたところ、「子どもを礼儀正しく、そして数理の得意な子にしたいから」という答え。つまりは日本の学校で普通に行われている生活指導を含む学校教育を望むニーズは非常に高いのだと感じた。そして私たちは日本式の教育を通して、他者を慮る気持ちを強くしていたのだと実感した。

Moral Education

Japanese School of Abu Dhabi

Teaching these moral values
Not through textbooks alone
 but through **daily activities**

① Clean-up activity

↓

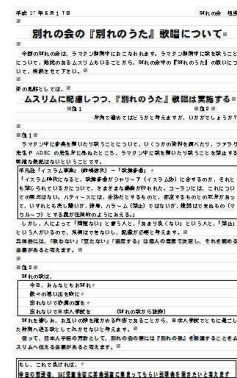
**Being voluntary to society
with the heart of appreciation**

◇イスラム文化を受け入れる

イスラムの児童生徒とともに学校活動をしているため、ラマダン（断食）などのイスラムの習慣に対して理解を深め、尊重することができるよう、折を見て指導してきた。



إشعار الصائم بنعمة الله عليه
 2- To feel Allah's grace and mercy on the fasting person.



③現地の素材を生かした教材研究

◇太陽と光の反射の実験（理科）

日差しを強さを活かした太陽熱を実体験する実験。
 なんと太陽熱で、目玉焼きができる！



北回帰線のすぐ近くの日本人学校は、夏至の日の南中高度が、ほぼ真上！
自分の影が自分の真下にできる。



◇地層の教材

産油国である UAE は、化石時代の地層が地表に露出している場所が多くある。
世界遺産のハフィート山は地層むき出しの山。



グラウンド改修工事の際の地層



ハフィート山の景観

◇見学学習

UAE の消防車は黄色。電話番号は 9 9 9。日本と比較しながら見学するとおもしろい。

大使館へは、キャリア教育の一環として訪問した。領事への質問「領事にとって仕事とは？」に対して「自己実現の場です」は、考えさせられる深い言葉だった。



消防署見学



大使館訪問

◇砂漠キャンプ

子どもたちも楽しみにしている砂漠キャンプ。雨の心配もなく、清潔で、虫もない、後始末も簡単。砂漠は最高のキャンプ地かも！？



◇現地校との交流



ブリティッシュスクール 現地校イティハド校



◇英語学習について

UAE 生徒は英語を流暢に話す。看護師、バスドライバーのインド人、バス添乗員のフィリピン人、警備のネパール人も英語を話す。なぜかと考えると「彼らは英語を使って生活している」から。UAE 生徒も家庭教師がついて英語を学び、メイドとは英語で会話をする生活をしているから話せるのだ。ただし UAE 生徒は英語を書くことが苦手な傾向がある。話せても彼らは正確に書くことができない場合が多い。一方で日本人は正確に書けるが、聞いたり話すことが苦手なことが多い。つまり英語を話すには話す（読む）練習を、書くには書く練習をしなくてはならないという単純な答えが導かれる。日本人にとってアンラッキーなことは、英語を話さなければならない日常場面が少ないことだ。

◇日本語教室に参加して

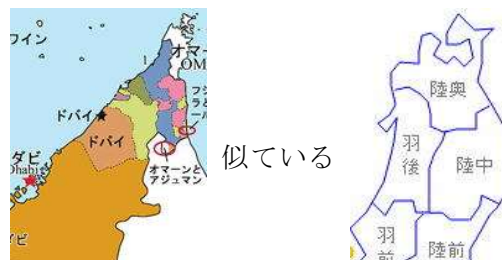


学校を会場にして大使館が主催している『日本語教室』に継続的に参加させていただき、日本語を母語としない方々の日本語習得の過程と日本語習得に当たっての困難さがどこにあるのかを観察させていただくことで、UAE ナショナル児童生徒への日本語指導に活かそうと考えた。

参加者 : 現地女性 5 名 (大学生 4 名、社会人 1 名)、マレーシア人夫婦一組

◇日本語教室で気付いたことを生かして（1）

- ・児童生徒が知らない単語は、日本語を駆使して説明しない（置き換えて伝える）
- ・将軍って何？ ⇒ 「武士の頭領で幕府を開いた人です」では伝わらない
「将軍 → General」、 「藩 → UAE の中の首長国のようなもの」
のように、英語の理解が進んでいる子には英語で、または、UAEの身の回りのこと
に例えられるものは、例えて伝えることで、あっさり伝わるが多かった。



◇日本語教室で気付いたことを生かして（2）

- ・イメージしにくさを克服する
 - ・言葉から「物、様子など」をイメージしにくい場合は、絵（写真、図）を教師が用意し、言語からイメージできるようにする
- ※具体物よりも様子、様子よりも出来事は、よりイメージしにくい傾向にある

4年生で学習する『ごんぎつね』という物語の中には、普段目にするものの少ないものがたくさん登場する。『しだ』『菜種がら』『百姓家』『もずの声』『小川のつつみ』『すすきのほ』…。

そこで、イメージしにくい言葉は徹底的に写真にして教室に貼り出した。そうすることで、言葉を介してでは伝わり



にくかったものや事柄が、ナショナル児童はもちろん日本人児童にとっても簡単に理解することができ、より物語の世界に没頭できるようになった。



これは国語の学習だけではなく、社会の歴史学習等にも応用することができ、読み上げられた事柄に対応する写真のカードを速く取り合うカルタのような遊びや、トランプの神経衰弱遊びのように、裏にしておいたカードを2枚表に返して、写真と対応する名称のカードを当てたら自分の物にできるといった遊びを通して、暗記すべき単語とイメージをセットで覚えるという活動をしたところ、大きな成果をあげることができた。

◇日本語教室で気付いたことを生かして（3） Input より、Output させて修正する

自分は、英語やアラビア語を聞いていても、イマイチ小さな発音の違いや意味の違い

に気付けないことが多かった。しかし、実際に自分の口で発音してみて、それを聞いてもらって直すようにすると、飲み込みがよい気がした。

授業においても、受け身ではなく、どんどん児童生徒が声を出して意見を発表する授業づくりを心掛け、それをもとに学習を組み立てていくことが、やはり基本だと考える。



◇ UAE と日本のつながり



UAE にとって日本は最大の原油輸出国であり、日本にとっても第 2 位の原油輸入国であることはもちろん、その他にも、いろいろなつながりがある。

かつて UAE には産業らしい産業がなく、細々とした漁業や真珠取りしかなかった。真珠は 1 万個のアコヤ貝から 1 つか 2 つしか採れない効率の悪いもので、世界で最もつらい仕事の一つとされる。その真珠採り産業に大きな打撃を与えたのは、日本の養殖真珠の技法の確立だった。

そんな商売敵ともいえる日本に対して UAE 首長は恨むこともなく、素直にその技術を尊敬し、首都の都市計画作りに日本人技師を招聘する。

また、UAE 首長は悲願とも言える砂漠の緑化計画を日本人の技師に依頼した。日本人技師は、永久的に植物が育つ環境を作ることを考え、海水で育つマングローブを UAE に定着させることに成功し、今もアブダビにはマングローブの森が広がっている。

3 終わりに

遠く中東の国に派遣していただき、各都道府県から赴任された先生方並びにご家族、UAE に住んでいる様々な方々に出会えたことに感謝したい。また、日本を離れ異国の地で生活し、異なる文化を肌で感じながら仕事に打ち込むという、得がたい経験をさせていただいたことは、私にとってかけがえのない財産となった。

今後は、日本の外から客観的に日本を見つめることで気付いた日本の特徴、文化、考え方や、他の国との文化の違いなどを児童たちに気付かせるような実践をしていきたい。また、日本の伝統や歴史・文化も児童とともに発信するような活動をしていきたい。グローバル化がどんどん加速する中、国際社会を生き抜く児童を育成することが私の使命であると考えます。